

令和3年度 上田市立 城下小学校 自己評価シート

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)	
まなび きたえ ともにのびる子 一人一人が 輝く城下小学校		<ul style="list-style-type: none"> ・自ら求めて学び合う子ども ・明るくたくましい子ども ・友や地域と温かく関わる子ども 関わる力の育成」人、もの、ことに自分から関わる「+1」の力の育成。活動に対して自分で考えて工夫して動く	
		今年度の重点目標	
	1	「対話的個人追究」の推進による「主体的・対話的で深い学び」への授業改善	
	2	活動に対して、自ら考え、自ら動き、自ら表現できる「+1」の活動ができるたくましさの育成	
	3	地域の人々・自然・歴史・文化等から学ぶ「探究的」な教科学習や生活科・総合的な学習の実施	

総合評価					
成果と課題					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
全職員が授業を公開し、研修を通して、児童の視点に立った、授業づくり、教室環境づくりに取り組むことができた。	○				今後も研修を重ね、「対話的個人追究」の視点に立った、授業改善を研究授業を通して行っていく、児童の成長に役立てていく。
各クラス、各学年に応じた取り組みを考え、清掃や学習場面など、子どもたちが「+1」を意識して自分なりに取り組む姿が見られた。		○			「+1」の意識が定着してきたので、内容が深まるように、具体例を紹介しながら発展させていきたい。
総合的な学習の時間を中心に地域を知る活動や、稲作など、直接に指導していただくだけでなく、分からないことを質問するなど、感染対策を講じた上で交流することができた。			○		地域教材の掘り起こしを更に進め、探究的な取り組みが発展的に学習できるようにしていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	心の通じ合いを重視した指導の推進	協力して活動する場や互いの良さを認め合える場を設定しながら行事、学級経営、学習指導を進めることができたか。
		授業のユニバーサルデザイン化	どの子にもわかる・できる授業づくり、確かな学力が身につけていく授業づくりができたか。
		学び合いを大事にし、考えを交流する場の設定	国語の読解力、算数の思考力の向上を目指し追究の場がわからないことを聞き合いお互いの考えを伝え合う学習活動を設定しているか。
		家庭学習の充実	家庭学習の手引きを活用し、日頃の学習指導と連携させて家庭学習の習慣化がはかれたか。
		明るい挨拶や返事の励行	進んで行う挨拶や気持ちよい返事を繰り返し指導し、児童会を中心に実践することで、子ども達に広がっていったか。

総合評価					
成果と課題					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
なかよし郵便など手紙による交流や人数を制限した活動、ウェブによる児童総会など、コロナ禍でも実行可能な活動の工夫ができた。		○			総合的な学習の時間の充実により、学級、学年、全校、地域との交流を推進することにより、互いの良さを認め合う活動を工夫していく。
自然と「問い」が立ち上がる学習問題の工夫や資料、板書、学習カードの工夫をすることができた。CRTでは、全国比をほぼ上回ることもできた。			○		実践的な取り組みを通して、支援の在り方が明確になってきている。さらに、わかる、できる授業づくりをめざし、授業研究を通して行っていく。
「対話的個人追究」を中心にして、積極的に聞き合い、話し合う活動を取り入れたことにより、追究の深まりを感じられる活動が見られた。			○		「対話的個人追究」の良さを子どもたちの姿で評価し、更にICT機器を活用し「新しい学校生活」の中でも、対話的な学習の場を確保し、学びが深まる授業を工夫していく。
家庭での学習習慣が定着してきている児童が多い。Chromebookを活用した、リモート授業なども取り入れることができた。			○		ICTの活用を進め、学校の授業とリンクした内容で、保護者の協力と理解が得られやすい工夫をしていく。
あいさつに対する意識は高くなってきているが、まだまだ個人差も大きく、学校外でのあいさつまで良くなっているとはいえない。			○		児童会のあいさつ当番や、あいさつ運動など、あいさつが良くなってきているが、来校者や地域の方に挨拶を広げていけるようにする。

生徒指導	生活規範意識の育成 (基本的な生活のルール の 確立)	集団生活のきまりや約束に関する日常的な指導を進めたか。(遊びの約束事の徹底、安全な廊下歩行、授業を受けるルールの指導、無言清掃の取り組みに向けた指導等)規則正しい生活習慣が身につけてきたか。	無言清掃などしっかりできていることも多い。廊下歩行を改善しようと児童会が取り組むなど、自治的な活動が見られた。		○		児童会活動での呼びかけ等、効果がみられる活動をさらに充実させ、自治活動の意味を全校に具体的に知らせていく。
	いじめ・不登校を未然に防ぐ 取り組み (温かな人間関係)	自他の良さを認める場の設定や日常的な人権同和教育、自己有能感を高める教育活動を行うことができたか。 子ども達の様子に目を配り、友達関係や実態をつかみきめ細やかな保護者との連絡を心がけることができたか。	相談旬間やQUなど活用し、個々の児童について知ることができていた。組織的に関わることができている。	○			相談旬間、QU研修等、継続して行う。毎週行っている児童理解の時間を大切にし、状況によっては、関係各所と連携を図り対応する。
学校運営	学社融合 地域の方々との交流	地域の方々と連携して、地域のものや人と関わる活動や交流ができたか。	今年も、クラブ活動やマル付けボランティア、外部講師の授業など、地域の方との交流の場が大きく減ってしまっが、出来る範囲で活動をすることができた。			○	コロナ禍での交流の在り方を工夫していく。コミュニティースクールをはじめ、多くの方が、本校を支えてくださる体制があるので、積極的に連携し、取り組んでいく。
	保護者との連携	参観、行事、懇談、環境整備等、保護者の方々の理解や協力を得ながら教育活動を展開しているか。	今年も様々な行事の中止や縮小を余儀なくされたが、保護者の皆様のご理解と協力のもと、運動会や音楽会も行うことができた。PTA活動も縮小する中、花火の打ち上げなどPTA活動で学校を支えていただいた。		○		PTAの協力を得て、連携をさらに深めていく。学級懇談会だけでなく、多くのPTA行事等で連携し、意見や要望を聞きながら連携を図る。
	学校からの情報発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページを通して情報をタイムリーに発信できたか。	学級通信、学年通信、学校だより、ホームページなどで、情報発信を行ってきたが、まだまだ十分といえない。		○		ホームページなどで保護者が手軽に情報を確認できるように、掲載内容の工夫をする。また、双方向の通信などメールの活用方法を改善していきたい。
	研修	授業づくり研修	算数・体育・特別活動等の一人一公開授業を通して、自らの課題に向けて授業改善を進められたか。	研修の時間を確保し、実践的な研究を進めることができた。一人一公開を行い、「対話的個人追究」に焦点をあてた授業改善ができた。		○	

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった